【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】平成27年3月5日(2015.3.5)

【公開番号】特開2013-148803(P2013-148803A)
【公開日】平成25年8月1日(2013.8.1)
【年通号数】公開・登録公報2013-041
【出願番号】特願2012-10709(P2012-10709)
【国際特許分類】
Ｇ０９Ｆ　9/30　(2006.01)
Ｇ０２Ｆ　1/1368　(2006.01)
Ｈ０１Ｌ　29/786　(2006.01)
Ｈ０１Ｌ　21/336　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０９Ｆ　9/30　３３０Ｚ
Ｇ０９Ｆ　9/30　３３８
Ｇ０２Ｆ　1/1368
Ｈ０１Ｌ　29/78　６２３Ａ
Ｈ０１Ｌ　29/78　６１２Ｄ
Ｈ０１Ｌ　29/78　６１２Ｃ

【手続補正書】
【提出日】平成27年1月19日(2015.1.19)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
第１方向に延在され前記第１方向に交差する第２方向に並設される走査信号線と、前記第２方向に延在され前記第１方向に並設される映像信号線とが形成される表示領域と、前記表示領域の外側に形成され、前記映像信号線に信号を供給する複数の端子からなる端子群と、ドレイン電極が前記映像信号線に接続されると共に、ソース電極が検査用端子に接続され、ゲート電極が検査用の制御信号線を介して共通に接続される複数の第１の薄膜トランジスタからなる点灯検査回路とを備える表示装置であって、
前記検査用の制御信号線と所定の距離で離間して配置される導電性薄膜層と、
前記導電性薄膜層と前記第１の薄膜トランジスタとの間の領域に形成され、ゲート電極が前記検査用の制御信号線に接続される第２の薄膜トランジスタとを備え、
前記第１の薄膜トランジスタにおけるゲート電極とソース・ドレイン電極との間に静電スパークが生じる第１のスパーク発生電圧は、前記検査用の制御信号線と前記導電性薄膜層との間に静電スパークが生じる第２のスパーク発生電圧よりも小さい電圧であることを特徴とする表示装置。
【請求項２】
前記第２の薄膜トランジスタは、前記導電性薄膜層よりも前記第１の薄膜トランジスタに近い側に配置されることを特徴とする請求項１に記載の表示装置。
【請求項３】
前記導電性薄膜層は、平面的に見て前記検査用の制御信号線と離間して配置され、前記第１の薄膜トランジスタのゲート電極に接続される前記検査用の制御信号線と同層に形成されることを特徴とする請求項１又は２に記載の表示装置。

【請求項４】
前記第２の薄膜トランジスタは２つ以上の薄膜トランジスタからなり、前記第１の薄膜トランジスタのドレイン電極とソース電極との内の少なくとも一方の電極が電気的に接続されることを特徴とする請求項１乃至３の内の何れかに記載の表示装置。
【請求項５】
前記第１及び第２の薄膜トランジスタは、同一の製造工程で形成されることを特徴とする請求項１乃至４の内の何れかに記載の表示装置。
【請求項６】
前記導電性薄膜層は絶縁膜を介して重畳配置される少なくとも２層以上の導電性薄膜からなることを特徴とする請求項１乃至５の内の何れかに記載の表示装置。
【請求項７】
前記第１方向及び前記第２方向に屈曲されてなる延在部を備え、
前記屈曲部の一端側は開放され、他端側は前記第２の薄膜トランジスタのドレイン電極とソース電極との内の一方の電極の電極に電気的に接続されることを特徴とする請求項１乃至６の内の何れかに記載の表示装置。
【請求項８】
絶縁膜を介して重畳配置される少なくとも２層以上の導電性薄膜からなる容量部を備え、
前記容量部は前記第２の薄膜トランジスタのドレイン電極とソース電極との内の、少なくとも一方に配置されることを特徴とする請求項１乃至６の内の何れかに記載の表示装置。
【請求項９】
前記導電性薄膜層は、薄膜トランジスタからなることを特徴とする請求項１乃至６の内の何れかに記載の表示装置。